

当署管内の死亡労働災害概要(平成元年～)【全産業】

日立労働基準監督署

番号	発生日時	職 種 性別・年齢 経験年数	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要と原因	対 策
1	H1.2.14 (火)	塗装工 男・50歳代 経験30年	建築工事業	墜落・転落 屋 根	木造2階建住宅の屋根上にある飾り窓の塗装作業が終了し、移動はしごで地上に降りようとしたところ、屋根端(高さ約7m)から墜落した。	・屋根上等の高所作業時は、足場や手すりの設置等墜落防止措置を講じること。 ・足場等の設置が困難な場合は、安全帯を使用させること。 ・高所作業時は、保護帽(墜落時保護用)を着用させること。
2	H1.5.29 (月)	事務員 女・50歳代 経験20年	一般機械器 具製造業	挟まれ・巻 き込まれ 乗用車	工場内駐車場に止めてあった乗用車の窓(パワーウィンドウ)を閉めようとしてエンジンキーを回したところ、乗用車が後退し、右前輪に巻き込まれた。	・マニュアルトランスミッション(MT)車は、始動時の誤発進防止のため、運転席に座り、クラッチペダルを踏んでギアをニュートラル位置にしてからエンジンをスタートさせること。 (平成11年7月、2tトラック等を除き、MT車にクラッチスタートシステム装備を義務化。)
3	H1.6.2 (金)	土 工 男・60歳代 経験11年	土木工事業	激突され 材 料	工業団地造成工事現場で、足場板(約250kg)をドラグ・ショベルにチェーンを掛けて吊り上げ、トラック(2t)に積み込む作業中、チェーンが切れて頭部に当たった。	・資材等のつり込み作業を伴う現場では、移動式クレーン仕様の車両系建設機械を使用すること。 ・玉掛け用つりチェーンは、法定安全係数(4又は5)以上とし、不適格(伸び、摩耗、亀裂)なものを使用しないこと。 ・クレーン運転、玉掛け業務は有資格者に行わせること。
4	H1.6.17 (土)	給水係 男・60歳代 経験18年	接客娯楽業	おぼれ 水	簡易水道のコンクリート製受水沈殿槽(幅約8m、長さ約11m、深さ約2.7m、水深約2m)の、コンクリート壁上端(幅約28cm)から転落しておぼれた。	・作業又は通行時に槽内に転落する危険箇所には、さく等(高さ75cm以上)を設けること。 ・危険箇所での作業時は、労働者に安全帯を使用させる等の措置を講じること。
5	H1.6.20 (火)	運転助手 男・50歳代 経験17年	土木工事業	激突され 移動式ク レーン	新築工事現場において、トラック荷台の木材を移動式クレーン(つり上げ荷重2.93t)により荷降ろしをするため、アウトリガーを手で引き出した際、腹部に当たった。	・手動式アウトリガーの引き出し作業は、不意の抜けによる受傷防止のため、正面で行わないこと。
6	H1.8.28 (月)	掘削工 男・40歳代 経験21年	土石採取業	崩 壊 地 山	採石場において、切羽の岩盤が縦約30m、幅約20mにわたって崩壊し、付近で車両系建設機械(ドラグ・ショベル)を運転していた被災者が岩石に押しつぶされた。	・掘削方法、掘削面の高さ・勾配、掘削機械、湧水処理方法等について採石作業計画を作成し、作業を行うこと。 ・点検者に、始業前、大雨・中震、発破後に作業箇所と周辺地山の浮石・亀裂の有無、湧水の状態の変化等を点検させること。 ・採石掘削作業主任者に作業の直接指揮をさせること。
7	H1.11.15 (水)	製缶工 男・50歳代 経験30年	その他の建 設業	有害物等と の接触 その他の装 置等	工場構内において、石炭燃焼排ガスを排出するダクト(2.5m×2.5m)の補修作業中に、安全帯取付設備の支柱の溶接部分が破損したためダクト内に転落し、酸素欠乏症により死亡した。ダクト内の酸素濃度は、約8.5%であった。	・安全帯を使用させる時は、取付設備の異常の有無を、事前に点検しておくこと。
8	H1.12.12 (火)	軽作業員 女・50歳代 経験7年	土木工事業	挟まれ・巻 き込まれ トラック	下水道管理設工事現場で、埋設が終わった道路上を清掃する作業をしていたところ、後退してきたトラックに轢かれた。	・トラックの運行範囲への作業者の立入を禁止するか誘導者を配置して誘導させること。
9	H2.4.23 (月)	鉄骨工 男・40歳代 経験15年	建築工事業	墜落・転落 建築物	鉄骨造家屋建築工事現場において、鉄骨の上(高さ約8.2m)に乗って組み立て作業中、移動式クレーン(つり上げ荷重4.9t)によりつり上げられた鉄骨材料を受け取ろうとしたところ墜落した。	・高所作業時は、足場や手すりの設置等墜落防止措置を講じること。 ・足場等の設置が困難な場合は、水平親綱等を設置して安全帯を使用させること。 ・高所作業時は、保護帽(墜落時保護用)を着用させること。
10	H2.8.11 (土)	所 長 男・40歳代 経験3年	陸上貨物取 扱業	挟まれ・巻 き込まれ トラック	倉庫内において、トラック(10t)の荷積み作業中、トラックを後退させるため誘導していたところ、トラックと荷物との間に頭部を挟まれた。	・トラックの誘導者を配置するときは、運転者の死角に入らない位置に立ち、笛等により合図を明確に行わせること。 ・運転者に、誘導者の合図に従わせること。
11	H2.8.21 (火)	オペレー ター 男・20歳代 経験5年	電気機械器 具製造業	挟まれ・巻 き込まれ クレーン	フォークリフトを用いて荷の運搬作業中、照明用スイッチに接触して壊してしまったため、修理しようとして天井クレーンの点検歩道に通じる階段を登っていたところ、走行してきたクレーンと階段との間に胸部を挟まれた。	・天井クレーン等に近接する建屋・機械設備等の点検、補修等の作業を行うときは、労働者の挟まれ等の危険を防止するため、クレーン等の運転を禁止すること。 ・不意の起動防止のため、天井クレーン等の操作部分に運転禁止する旨の表示をすること。
12	H2.8.28 (火)	土 工 男・50歳代 経験10年	土木工事業	飛来・落下 岩 石	橋梁建設工事において、橋台設置のための掘削作業中、ドラグ・ショベルを用いて、残土(軟岩、0.3t)を法面(斜度45度)へ移動させたところ、軟岩が転がり落ち、その下方を通行していた被災者に激突した。	・掘削作業箇所の方への立入りを禁止すること。 ・飛来落下等のおそれのない安全な通路を確保すること。
13	H2.9.4 (火)	鳶 工 男・60歳代 経験30年	建築工事業	墜落・転落 立 木	神社の修繕工事現場において、境内にある立木に登って、枝の上(高さ約5m)に乗って枝打ち作業をしていたところ、墜落した。	・立木の枝打ち等の作業時は、高所作業車を使用すること。 ・やむを得ず木登りによる場合は、安全帯を使用させるとともに、はしごを固定させる等、安全な昇降方法を講じること。 ・高所作業時は、保護帽(墜落時保護用)を着用させること。
14	H2.10.15 (月)	コンクリート 圧送工 男・50歳代 経験22年	建築工事業	墜落・転落 足 場	ビル建築工事現場において、コンクリート打設作業が終了し、コンクリートポンプ車の接続ホースを取り外す作業中、外部足場の端(9段目、高さ約15m、高さ約88cmの手すり設置。)から墜落した。	・足場には、手すり等(高さ85cm以上)及び中さん等(高さ35～50cm)を設置すること。 ・足場上の作業で墜落のおそれがある場合、安全帯を使用させること。
15	H2.12.27 (木)	製缶工 男・40歳代 経験3年	建築工事業	墜落・転落 足 場	建屋内部の製品貯蔵出荷設備据付工事現場において、サイロの周囲に設置された張出し足場(高さ約7m)で、使用の終了した用具をロープを用いて下方に降ろす作業中、用具がロープから外れ、その弾みでバランスを失い墜落した。	・足場には、手すり等(高さ85cm以上)及び中さん等(高さ35～50cm)を設置すること。 ・足場上の作業で墜落のおそれがある場合、安全帯を使用させること。
16	H3.1.6 (日) 10:30	事務員 男・40歳代 経験17年	窯業・土石 製品製造業	挟まれ・巻 き込まれ トラック	製品置場において、工場から運ばれてきた製品(ヒューム管)の受入れ作業を行っていたところ、荷降ろしを終えた4tトラックが方向転換し、後退してきたことに気づかず轢かれた。	・荷降作業場内に安全通路を設けること。 ・荷降作業の監視者を、トラックの運行範囲内に立ち入らせないこと。 作業開始前に運行経路、作業方法等を協議し、安全確保を徹底すること。

番号	発 生 日 時	職 種 性別・年齢 経験年数	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要と原因	対 策
17	H3.2.5 (火) 16:10	運転手 男・40歳代 経験19年	道路貨物運 送業	墜落・転落 昇降機	ビル3階(高さ7m)の窓から、昇降機(トールポーター)を使用して段ボール箱(重量23kg)を運び出そうとして、窓外にセットした搬器に足を掛けたところ、搬器が約2m降下したため墜落した。	・労働者に安全帯を使用させること。 ・昇降機の機能について、点検整備体制を確立すること。 ・昇降機作業の安全作業標準を作成すること。
18	H3.3.1 (金) 13:15	鳶 工 男・20歳代 経験1年	建築工事業	墜落・転落 足 場	鉄骨造家屋建築工事現場において、鉄骨の梁を塗装するために使用した吊り足場(高さ7.5m)の解体作業中、足場板を高所作業車の搬器へ積み込もうとした際、吊り足場上から墜落した。	・労働者に安全帯を着用させること。 ・作業開始前に、足場解体の作業方法、手順を関係者に周知すること。
19	H3.3.5 (火) 17:05	電 工 男・60歳代 経験28年	建築工事業	墜落・転落 足 場	木造住宅新築工事現場において柱組作業中、被災者(電気工事業者からの応援)が丸太上(高さ約6m)に乗り、方向を変えようとしたところ、足を滑らして墜落した。	・安全ネット・足場板を設置し、安全帯を使用させる等墜落防止措置を講じること。
20	H3.3.11 (月) 2:24	保線工 男・70歳代 経験10年	土木工事業	交通事故 列 車	線路上で、道床を固める砕石を工事用貨車から荷降ろしした後、取出口付近に残っていた砕石をショベルで落としていたところ、走行してきた貨物列車に接触した。	・見張役の警報が全員に伝わるよう、マイク等を使用させること。 ・警報が伝達した場合、了解の意思表示をさせること。 ・上下線で作業する場合、接近する列車を注視させること。
21	H3.4.26 (金) 15:45	運転手 男・40歳代 経験7月	道路貨物運 送業	飛来・落下 荷	貯木場において、赤松材136本(長さ4m、直径12~18cm)を11トラックのステッキより高く積込んで、緊結用ワイヤロープを掛けていたところ、うち1本(直径20cm、長さ4m、重さ70kg)が転落して、頭部・胸部に激突した。	・ステッキより高く原木を積込まない等積載基準を定め、周知徹底すること。 ・積込んだ原木の緊結作業手順書を作成し、周知徹底すること。
22	H3.5.30 (木) 14:15	破碎工 男・50歳代 経験23年	土石採取業	墜落・転落 ホッパー	貯石場において、石灰石をクラッシャーのホッパーに投入中、ブリッジ現象(出口付近で大きな石が詰まる)を起こしたため、トラクターショベルを用いて鉄パイプを打込んだが落ちず、ホッパー内に入り鉄パイプを引抜こうとしたところ、ブリッジが落ちて、ホッパー内の石の山に生き埋めとなった。	・ブリッジ落とし作業は、専用重機を使用すること。 ・労働者がホッパー内に入らなくともできる作業方法で行うこと。 ・やむを得ずホッパー内に立入る場合、転落等の危険防止措置を講じること。
23	H3.7.18 (木) 16:00	塗装工 男・30歳代 経験14年	設備工事業	感 電 トロリー線 (クレーン)	工場建屋の塗装工事現場において、梁部分(足場上から梁の高さ1.5m)の塗装を、棚足場(高さ6.75m)で腰をかがめて行っていたところ、梁の真下(0.6m下方)に設置されていた天井クレーンのトロリー線(200V、3本)の電源を切っていなかったため、これに接触して感電した。	・塗装作業を行う前に、トロリー線が通電していないことを確認すること。 ・クレーンの電源スイッチを閉路にした場合、施錠若しくは通電禁止の表示、監視人を置く等の措置を講じること
24	H3.7.24 (水) 17:45	運転手 男・30歳代 経験5年	道路貨物運 送業	交通事故 トラック	常磐道下り車線において、大型トレーラー(最大積載量35t。木製パレット積み。)を運転して帰社途中、インタチェンジ手前で急ブレーキをかけたところ、スリップして中央分離帯に接触し、道路左側のガードロープに衝突した。当時、大雨が降り、最高速度50km制限のところ、時速90kmで走行していた。	
25	H3.8.6 (火) 14:30	塗装工 男・40歳代 経験20年	建築工事業	感 電 配電線	鉄筋コンクリート建屋の外壁塗装工事現場において、枠組足場の組立て作業中、足場作業床上で、架空電線(高さ9.2m、引込線6,600V)を跨ごうとして接触し、感電した。持っていたビディ枠が電線に触れて被覆が切れた模様。足場の組立等作業主任者が未選任。	・高圧架空電線の近接作業時は、充電電路を移設するか閉路(停電)すること。 ・高さ5m以上の足場の組立等作業は、有資格者のうちから作業主任者を選任し、直接作業指揮をさせること。
26	H3.8.9 (金) 13:10	土 工 男・60歳代 経験18年	土木工事業	激突され 伐倒木	砂防用ダム(鋼製堰防)建設工事現場において、山腹(斜面)の立木を伐採する作業中、同僚が合図をせずに、杉(高さ約20m、胸高直径26cm)を伐倒したところ、方向が約35度ずれて、約8.5m離れた位置で伐倒作業をしていた被災者に激突した。チェーンソー作業の特別教育が未了。	・伐倒の合図(予告、伐倒時、終了)を定め、明確に行わせること。 ・つるが適正に機能するような伐倒方法を行うこと。 ・斜面においては、上下作業を行わせないこと。 ・チェーンソーに係る特別教育を行うこと。
27	H3.10.14 (月) 9:15	土 工 男・60歳代 経験22年	土木工事業	崩 壊 地 山	住宅の増築工事に伴う崖の擁壁築造工事現場において、崖部分(高さ約4.5m、勾配60~65度)を高さ約2mまで垂直に掘削し、さらに手掘りで床掘り(長さ約2.7m、幅0.9m、深さ0.7m)作業中、法面が長さ5m、高さ6m、奥行き1.5mにわたって崩壊し、生埋めとなった。	・地山の崩壊による危険がある場合、土止め支保工を設け、防護網を張り、立入禁止等の措置を講じること。 ・大雨の後に掘削作業を再開する場合、法面の亀裂、湧水の有無等土砂崩壊のおそれの有無を点検すること。 ・地山の掘削等作業主任者に直接作業指揮をさせること。
28	H4.1.16 (木) 14:25	運転手 男・40歳代 経験18年	清掃業	交通事故 清掃車	県道上でバキューム車を運転中、反対車線に飛び出し、対向車(トラック)と衝突して道路下の水田に転落し、全身を強打した。	
29	H5.3.3 (火) 10:31	運転手 男・50歳代 経験22年	道路貨物運 送業	転 倒 貨物自動車	セメントを納品するため、粉粒体運搬車を操作(ダンプアップ)したところ、車のバランスが崩れて横転し、その下敷きとなった。	・運搬車(車両系荷役運搬機械)の転倒防止のため、平坦な場所で荷降ろしを行うこと。
30	H5.2.2 (火) 11:35	重機オペ レータ 男・40歳代 経験2年	土木工事業	転 倒 車輛系建設 機械	造成工事現場で、ドラグ・ショベルを運転して急斜面(約20度)を走行中、運転席を前向きに旋回させたところドラグ・ショベルが横転し、その下敷きとなった。運転席のドアを開けたまま走行していた。	・誘導者を配置すること。 ・不整地用クローラを装着する等安定性を確保すること。 ・運転席のドアを閉めて作業すること。
31	H5.3.9 (火) 5:10	配達員 男・50歳代 経験10年	小売業	交通事故 乗用車	オートバイを運転して新聞配達中、市道のT字路交差点で対抗してきた乗用車と衝突した。	
32	H5.4.27 (火) 15:50	港湾作業員 男・40歳代 経験0年	港湾荷役業	おぼれ 海	船舶より木材(長さ4m、重量2.5t)の荷降ろし作業中、埠頭端の縁石に座っていたところ、後方の海中に転落した。船と岸壁間に幅60cmの開口部が生じていた。	・船と岸壁間に生じる開口部からの転落防止措置を講じること。

番号	発 生 日 時	職 種 性別・年齢 経験年数	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要と原因	対 策
33	H5.9.24 (金) 14:10	建設作業員 男・20歳代 経験7年	その他の建設工事業	交通事故 乗用車	高速道路の追越車線を規制して本作業を行った後、工事を知らせる標識を撤去しようとしたところ、走行してきた乗用車にはねられた。	
34	H5.9.30 (木) 9:30	職 長 男・50歳代 経験21年	土木工事業	飛来・落下 材 料	下水道工事現場において排水管を設置するためシートパイルを溶断(穴あけ)中、シートパイルと腹おこしの間に打設してあった間詰コンクリート塊が落下し、被災者の頭部に当たった。	<ul style="list-style-type: none"> ・土止支保工の解体作業に際しては、落下のおそれのあるものは事前にすべて取り除くこと。 ・土止支保工解体作業の作業標準を作成し、作業者に周知徹底すること。 ・作業開始前の点検を行うこと。
35	H5.11.9 (火) 10:50	調理員 男・40歳代 経験 年	食料品製造業	交通事故 乗用車	ワゴン車で弁当を配達中、交差点で信号を無視して進入してきた乗用車に側面から衝突され、さらにガードレールに運転席より激突した。	
36	H6.1.17 (月) 9:00	土木作業員 男・50歳代 経験1.9年	土木工事業	転 落 ダンプトラック	採石場において、ダンプトラックを運転して土石の投下作業中、ベンチ端(高さ約50m)より下方の岩場に、ダンプトラックと共に転落した。	<ul style="list-style-type: none"> ・土石投下作業には、建設機械を使用すること。 ・ダンプトラック等の転落防止措置を講ずること。 ・作業計画書及び作業手順書を作成すること。
37	H6.1.24 (月) 11:05	製缶工 男・40歳代 経験10年	金属製品製造業	激突され 荷	構内において、積載型トラッククレーンで搬入した軽量鉄骨(長さ10m、1本当り40kg、30本束)を、被災者がトラック荷台上で天井クレーン(床上操作式、つり上げ荷重5t)を操作し、玉掛してつり上げようとしたところ、軽量鉄骨が滑り出して腰を激突され、車外に転落した。無資格で玉掛作業に従事していた。	<ul style="list-style-type: none"> ・あだ巻き掛け(2重巻)等、つり荷が滑らない玉掛け方法を講ずること。 ・有資格者に玉掛作業を行わせること。
38	H6.3.24 (木) 1:27	運転者 男・50歳代 経験8年	一般貨物自動車運送業	交通事故 トラック	トラックを運転して国道を走行中、前方に停止中の大型トラックがあり、また、反対車線を走行してくる車があったため急停止したが、停まりきれず、大型トラックに追突した。	
39	H6.8.27 (土) 11:40	職 長 男・40歳代 経験16年	鉄鋼業	挟まれ 材 料	天井クレーン2台で金属製箱(重さ770kg)をつり上げたところ、玉掛け用ワイヤロープの一端が外れ、ついていた箱が落下し、その下で作業をしていた被災者が頭部を挟まれた。	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーンのつり荷の下方に作業者を立入らせないこと。 ・玉掛け作業方法、作業手順の改善を図ること。
40	H7.1.20 (金) 8:55	電工 男性・30歳代 経験13年	電気機械器具製造業	感電 その他の設備	制御盤の出荷検査作業に従事していた。電源を遮断し制御盤の端子に仮設の配線を接続しようとした時、検査用仮設電源(三相交流400v)の露出部に接触して感電した。	<ul style="list-style-type: none"> ・停電作業を行うときは、分電盤を施錠する等の措置を講ずること。 ・作業を行う前に露出部が充電されていないことを確認すること。
41	H7.8.26 (土) 2:15	運転手 男性・30歳代 経験10年	道路貨物運送業	交通事故 道 路	4tトラックを運転し国道を走行中、交差点で信号待ちのために停車していたところ、後方から走行してきた10tトラックに追突され、被災者運転のトラックが右前方の人家のブロック塀に激突した。	
42	H8.2.8 (木) 9:00	指導員 男40歳代 経験26年	電気機械器具製造業	交通事故 乗用車	水力発電所の指導員として海外出張中、現場での業務を終え、乗用車を運転してアパートに戻る途中、黄信号で交差点を走行している時、赤信号で進入してきた乗用車に運転席側面に衝突され死亡した。	
43	H8.9.12 (木) 13:40	索道員 男・40歳代 経験8年	その他の建設業	倒壊 ケーブルクレーン	臨時のケーブルクレーンを組立てる工事のうち、巻上索を付け替える作業において、山側のA型支柱(高さ10mのうち根入れ部分は1m)の8mに登り、安全帯を使用し待機していたところ、横行索・巻上索に通されていた荷吊り装置が支柱に当たり、その圧力により支柱が倒れ、被災者も地面に頭を打ち脳挫傷により死亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインチの運転の際の連絡方法を現場環境にあわせ、計画すること。 ・同時通話装置の電話とすること。 ・ロープの巻き過ぎ防止のため、ロープに標識や警報を付ける等すること。 ・ケーブルクレーンの前控は、堅固な固定物に巻き付け、クリップ、クランプ等を確実に取り付けること。
44	H9.2.15 (土) 16:20	大工 男・60歳代 経験47年	木造家屋建築工事業	墜落・転落 開口部	木造2階建新築工事現場において、2階階段部の窓枠取り付け作業中、3.35m下のコンクリート床の上に墜落し死亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ2m以上の場所で作業させる場合には、開口部に覆いや防網を設置し、墜落による危険を防止すること。 ・高所作業に関する安全教育を実施し、関係労働者の安全意識を高揚させること。
45	H9.3.13 (木) 16:00	大工 男・60歳代 経験40年	木造家屋建築工事業	墜落・転落 足場	木造家屋建築工事現場において、鋼製枠組足場にて1階屋根の取り付け作業中、突然、不調を訴え足場上(高さ1.8m)に座っていたところ、手摺りのない足場の躯体側(間隙約0.6m)より墜落した。	<ul style="list-style-type: none"> ・墜落による危険性のある箇所については、手摺を設けること。
46	H9.3.17 (月) 9:20	大工 男・70歳代 経験20年	土木工事業	崩壊・倒壊 地山・岩石	下水道管理設のため、深さ1.8mの掘削箇所の床付作業中、突然、周辺の地山が崩れたため、肝挫傷及び骨盤骨折を受傷し、数日後に死亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削箇所に立ち入る際には、設計通りの勾配が確保されているか、凸凹及び降雨などの影響を考慮し、十分な点検を行った後に、作業を行わせるようにすること。
47	H9.4.8 (火) 8:05	鳶工 男・20歳代 経験4年	建設工事業	墜落・転落 足場	クライミングクレーン専用の鋼製枠組足場の解体作業中、足場付属の昇降用階段を下りていたところ、バランスを失い、9m下の地面へ墜落し死亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ・昇降用階段には、墜落防止対策として両端に有効な手摺りを設置すること。 ・高所作業に関する安全マニュアルを作成し、関係者に周知徹底するよう安全教育を実施すること。
48	H9.4. 28 (月) 13:30	大工 男・60歳代 経験40年	建設工事業	墜落・転落 作業床	廃材を一輪車でトラックに積み込む作業を行っているとき、トラックの荷台にかけていた木製の作業床(高さ2m、幅96cm)から墜落し死亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業床の両側面には、85cm以上の手摺りを設けること。 ・一輪車に関する安全作業マニュアルを作成し、関係者に周知徹底すること。
49	H9.9. 10 (水) 23:30	集配員 男・30歳代 経験1か月	接客娯楽業	その他 その他	集配業務を終え、社用車を運転して帰社途中、車を止められ、背後より左腰をピストルで撃たれ死亡した。	

番号	発 生 日 時	職 種 性別・年齢 経験年数	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要と原因	対 策
50	H9.10.30 (木) 9:30	現場監督員 男・30歳代 経験19年	土木工事業	溺れ 海	防波堤周囲へのテトラポット設置工事現場において、現場の状況写真を撮影中に足を滑らせ、テトラポットと防波堤の隙間から海中へ転落して溺れた。	・原則、テトラポット上は立ち入り禁止とすること。 ・滑り難い靴を着用すること。 ・ライフジャケットは紐等により縛り、脱げないようにすること。
51	H10.2.11 (水) 16:45	主任技師 男・50歳代 経験5年	その他の建設業	墜落・転落 建設物・構築物	機械設備設置工事現場において、鉄製カバーの上に乗って2階部分の柱の塗装作業中、カバーが揺動したため、その弾みで設置されていた手摺を乗り越えてしまい、4.5m下のコンクリート床まで墜落した。	・墜落の危険性がある場所での作業には、安全帯を使用させること。 ・手摺付近に人が乗れるような部品等を置かないこと。 ・一人作業をできるだけ避けること。
52	H10.3.19 (木) 16:30	成形工 男・20歳代 経験3ヶ月	セメント・同製品製造業	はさまれ その他の一般動力機械	コンクリートブロックの成型ラインにおいて清掃作業中、他の作業者が成型ラインを起動させたため、コンベアと材料供給容器との間に胸部を挟まれた。	・成型ラインの清掃を行っていることが外部に分かるようにパトライトを設置すること。 ・清掃作業を行うときに、ホッパーを後ろに下げるとスイッチが外れ電源が切れるようにすること。 ・作業マニュアルを作成すること。
53	H10.6.23 (火) 16:00	クレーン運転手 男・20歳代 経験6年	港湾荷役業	はさまれ クレーン	貨物船にコンテナクレーンでコンテナの積み降ろし作業を行っていた。コンテナクレーンの運転は2名が交替で行っていたが、待機中の1名が尿意を催し、クレーンのトロリー上に乗ったところクレーンが動いたために、ウインチのカバーとクレーンの構造部に挟まれた。	・コンテナクレーンの運転は原則1名で行うこと。 ・運転席から離れる場合、必ずクレーンを所定の位置に停止させておくこと。 ・仮設トイレ、携帯用トイレ等を設置すること。
54	H10.12.14 (月) 14:10	運転手 男・50歳代 経験12年	廃棄物処理業	交通事故 トラック	ゴミ収集車で高速道路を走行中、前方を走っていた大型トラックを追い越そうとしたときに運転を誤り、大型トラックに接触した。ゴミ収集車の助手席に乗っていた被災者が全身打撲により死亡した。	
55	H11.2.2 (火) 4:30	新聞配達員 男・60歳代 経験5年	新聞販売業	交通事故 バイク	原付バイクで新聞配達中、交差点を右折する際運転を誤り、ブロック塀に衝突した。	
56	H11.2.3 (水) 10:45	作業員 男・60歳代 経験6年	一般機械器具製造業	はさまれ・巻き込まれ ボール盤	ボール盤を使用してステンレス鋼板の穴あけ作業中、ノギスで鋼板を測ろうとしたとき、右手にしていた軍手ごと、回転するドリルに巻き込まれた。	・ボール盤の作業をさせるときは、手袋を使用させないこと。
57	H11.3.15 (月) 15:00	大工 男・50歳代 経験45年	木造家屋建築工事業	墜落 作業床	木造家屋新築工事現場において、2階の梁に足場板を渡し、その上で作業をしていた被災者が、3m下の土間に墜落した。保護帽未着用。	・足場先行工法により施工すること。 ・防網を張り、安全帯と使用させる等墜落防止措置を講じること。 ・高所作業では、保護帽(墜落時保護用)を着用させること。
58	H11.7.9 (金) 0:20	運転者 男・40歳代 経験3月	一般貨物自動車運送業	交通事故 トラック	10tトラックを運転して国道を走行中、ハンドル操作を誤り横転し、道路右側の橋の親柱に激突した。会社を出発して約20分後に事故が発生した。	
59	H11.10.25 (月) 10:35	作業員 男・50歳代 経験39年	その他の事業	はさまれ・巻き込まれ トラック	構内において、作業員2名でトレーラーの荷台上で製品の寸法を測っていたところ、運転手が荷台上の作業に気付かずトレーラーを発進させたため、作業員の1人が転落し、車輪に巻き込まれた。	・貨物自動車を用いる荷役運搬作業は、合図や連絡方法を定めた安全作業基準を作成し、関係者に周知すること。 ・荷役作業が複数事業者間にわたるときは、作業開始前の連絡調整を密にすること。
60	H11.10.26 (火) 17:15	土工 男・60歳代 経験1月	河川土木工事業	交通事故 トラック	現場から事業場に戻るため、2tダンプトラックで国道を走行中、長い下り坂のカーブで運転を誤り、反対車線の縁石に乗り上げ転倒した。運転者が死亡、同乗者2名が負傷した。	
61	H12.1.28 (金) 17:20	技術員 男・40歳代 経験21年	電気機械器具製造業	感電 送配電線等	真空遮断機の開閉能力試験を実施後、配線を撤去するために接続部に接近又は接触したところ、コンデンサの残留電圧(約1万ボルト)により感電した。配線の撤去作業前に、試験回路中のコンデンサの残留電荷を放電せず、また検電、接地を行わなかった。	・停電作業を行うときは、残留電荷を確実に放電させること。 ・停電作業開始前に、検電器具を用いて停電及び放電を確認すること。
62	H12.7.11 (火) 16:05	監督員 男・40歳代 経験2年	その他の土木工事業	交通事故 軽自動車	県道沿いの除草作業現場に居眠り運転の軽ワゴン車(宅配)が突っ込み、現場代理人が死亡、下請作業員2名が負傷した。	
63	H12.9.4 (月) 15:40	軽作業員 男・60歳代 経験15年	その他の土木工事業	墜落・転落 車両系建設機械	物置解体後の片付け作業中、車両系建設機械(ローダー)を勾配のある場所に停止させて降りようとしたところ、ローダーが逸走(後進)して轢かれた。46日後に死亡。車両系建設機械(ローダー)運転の特別教育未了。	・特別教育の対象業務には、当該教育を修了した者のうちから指名したものを従事させること。 ・車両系建設機械の作業計画を作成し、関係者に周知すること。
64	H12.9.15 (金) 15:41	電機工 男・30歳代 経験15年	パルプ・紙製造業	感電 その他の電気設備	天井走行クレーンの定期自主検査を実施中、配電盤の配線(パイロットランプ用200V)の端部がこめかみ付近に接触して感電した。作業開始前に、作業指揮者が停電を確認しなかった。並列のクレーンを稼働させるため、走行トロリー線の電源を落としていなかった。	・停電作業を行うときは、作業指揮者に停電を確認させた後に、作業開始を指示すること。 ・接触のおそれのある隣接クレーンの運転を停止し、走行トロリー線の電源を落としてから点検を行うこと。
65	H13.5.10 (木) 11:45	とび工 男・40歳代 経験12年	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	墜落 足場	県立高校体育館改築工事現場において、最上部の足場板を敷く作業中、足場上(高さ約12m)から墜落した。安全帯を着用していなかった。	・足場の組立て作業時は、水平親綱を設ける等により安全帯を使用すること。 ・作業計画に基づき、足場組立て等作業主任者に、作業指揮をさせること。
66	H13.5.18 (金) 8:55	作業員 男・40歳代 経験6年	その他の土木工事業	激突され 車両系建設機械	掘削中の井戸穴(約5m四方、深さ約8m)で、地下水を汲み上げるポンプが埋まったため、ポンプに付けたロープをドラグ・ショベルのアームに掛けて、引き上げようとしたところ、オペレーターが操作を誤り、ロープを押さえていた被災者にバケットが激突、バケットと穴の壁面に挟まれた。	・車両系建設機械(ドラグ・ショベル)の接触危険範囲(走行範囲、アーム等の可動範囲)に労働者を立入らせないこと。 ・やむを得ず立入らせるときは、誘導者を配置し、その合図により作業をさせること。 ・車両系建設機械を、荷のつり上げ等主たる用途以外に使用しないこと。

番号	発 生 日 時	職 種 性別・年齢 経験年数	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要と原因	対 策
67	H13.6.24 (日) 12:50	作業員 女・70歳代 経験3年	その他の清 掃業	切れ・こす れ 刈払機	刈払機による草刈り作業現場で、合図なしに刈払作業中の同僚の作業半径内に立ち入り、回転歯に右足が触れ被災した。	・刈払機の作業範囲内には、明確な合図による相互確認、機械の運転停止なしに他の作業者を立入らせないこと。 ・合図の方法を定め、作業者にホイッスル等合図用具を携行させること。
68	H13.11.27 (火) 11:55	店 員 女・50歳代 経験3月	その他の小 売業	交通事故 トラック	葬儀場から造花を回収して軽トラックで店に戻る途中、道路のセンターラインを越えて対向車線に飛び出し、対向車(トラック)と衝突した。	
69	H13.12.15 (土) 13:20	作業員 男・70歳代 経験5年	道路工事業	激突され 車両系建設 機械	県道の拡幅工事現場で、ドラグショベルとブルドーザーを使用して砕石を敷き均す作業中、スコップで均す作業をしていた被災者が後退してきたドラグショベルの履帯部(クローラー)に轢かれた。	・車両系建設機械(ドラグ・ショベル)の接触危険範囲(走行範囲、アーム等の可動範囲)に労働者を立入らせないこと。 ・やむを得ず立入らせるときは、誘導者を配置し、その合図により作業をすること。
70	H13.12.18 (火) 8:40	屋根葺き工 男・40歳代 経験 1年	その他の建 築工事業	交通事故 ワゴン車	木造家屋建築工事現場に向かうため、ワゴン車(同僚1名が同乗)を運転して常磐自動車道下り車線を走行中、インターを通り過ぎてしまったため、急いでハンドルを切ったところ、道路左側のガードレールに激突して横転した。運転者が死亡、後部座席に乗っていた同僚も頭を打って重傷を負った。	・「交通労働災害防止ガイドライン」に基づき、運転者の安全運転教育を行うこと。
71	H14.3. 27 (水) 6:30	監督員 男・20歳代 経験3年	下水道工事業	交通事故 乗用車	下水道工事の竣工検査受検打合せのため、社有車を運転して会社事務所から元請会社に向かう途中、県道上でセンターラインをはみ出して、対向車に正面衝突した。	
72	H14.7.25 (木) 11:30	解体工 男・50歳代 経験2月	その他の建 築工事業	転 落 トラック	木造家屋の解体作業現場で、屋根に上って瓦を剥がしていた被災者が屋根上(軒高約180cm)で転び、家屋に横付けしていたダンプトラックのアオりに胴を強打した。腎臓、肝臓破裂により死亡した。	・作業計画に基づき、作業手順、作業分担等を作業者に周知すること。 ・職長を指名し、作業指揮をさせること。
73	H16.2.29 (日) 11:00	土木作業員 男・50歳代 経験4ヶ月	道路建設 工事業	倒 壊 構築物	県道拡張工事現場で、土止め用の帯工(コンクリート製、高さ約2.2m)の型枠を外していたところ、突然当該帯工が割れて倒壊したため、その下敷きになった。当該構築物は、型枠の支えを取外せば転倒するおそれがあった。	・上部帯工を製作するときには、転倒しない構造とすること。 ・施工方法、工程等について、安全面の事前検討を行うこと。
74	H16.3.7 (日) 12:15	その他の職 種 男・30歳代 経験9年	その他の 接客業	交通事故 その他	乗用車で走行中、道路に単管パイプで設置されていた工事用バリケードに衝突した。その際、単管パイプが車の前部を突き抜けて運転席まで貫通し、運転者の腹部に突き刺さった。	
75	H16.3.30 (火) 14:25	塗装工 男・50歳代 経験30年	その他の 建築工事業	はさまれ 高所作業車	事業場の外部配管(高さ5m)の塗装作業中、高所作業車のバケット操作を誤り、配管とバケット手摺に胸部を挟まれた。狭あいな場所で旋回作業を行った。作業計画は未作成。	・高所作業車の据付箇所、旋回方法等の作業計画を作成し、作業者に周知すること。 ・高所作業車の運転者について、能力向上教育を行うこと。
76	H16.9.16 (木) 0:30	運転者 男・50歳代 経験4月	一般貨物自 動車運送業	その他 その他	帰宅直後、寝室でクモ膜下出血を発症し、6日後に死亡した。長時間労働の過重業務によるものとして労災認定。	・時間外労働を削減すること。
77	H16.9.28 (火) 20:54	技術者 男・30歳代 経験2年	電気機械器 具製造業	感 電 原動機	発電機の性能検査を行っていた際、変圧器の1次側出力端子(18,000V、囲い未設置)に被災者が接触したため短絡が起こり、発生したアークにより全身に火傷を負った。29日後に死亡した。	・充電露出部に、囲いを設けること。 ・トランスの充電露出部付近の作業を行うときは、停電させて作業を行わせること。 ・電気取扱い業務従事者に特別教育を行うこと。
78	H16.11.16 (火) 1:50	運転者 男・50歳代 経験17年	一般貨物自 動車運送業	交通事故 トラック	国道を走行中、交差点で信号待ちをしていた大型トレーラーに、ノーブレーキで追突し、胸を強打し死亡した。	
79	H16.12.13 (月) 15:30	作業員 男・60歳代 経験30年	一般機械器 具製造業	飛来・落下 クレーン	鉄製架台(約2.2m、横6.7m、厚さ0.15m、重さ約1.6t)にアイボルトを組み込んで玉掛けをし、クレーンで吊上げようとしたところ、一方のアイボルトが破断して架台が倒れ、被災者が頭部を強打し、さらにその下敷きになった。そばにいた他の労働者も腰骨を骨折した。	・玉掛用具は、荷に応じた能力を有する物を使用すること。 ・アイボルトは、横方向に荷重が加わる横吊りで使用しないこと。 ・玉掛けには技能講習修了者を、クレーン操作は特別教育修了等有資格者を就かせること。 ・つり荷が落下するおそれのある範囲内の立入りを禁止する
80	H17.1.7 (金) 11:20	作業員 男・40歳代 経験24年	採石業	崩 壊 地山・岩石	採石場の切羽(高さ約17m)付近において、ジャイアントブレイカーを運転し、石を小割りしていたとき、切羽が上部から高さ5m、幅12.5mにわたって崩壊した。約20tの岩石が当該ブレイカーに激突し、運転席の被災者が押しつぶされた。亀裂の入った土石を予め、取り除いていなかった。採石作業主任者が、直接、作業指揮をしていなかった。	・崩壊のおそれのある土石は、予め取り除くこと。 ・掘削箇所付近で小割りをさせないこと。 ・すくい取り作業についても、採石作業主任者に直接指揮させること。
81	H17.1.27 (木) 1:30	運転者 男・30歳代 経験3年	一般貨物自 動車運送業	交通事故 トラック	取引先へ向かうため国道を走行中、信号待ちをしていた大型トラックに追突した。前方不注意。	
82	H17.6.7 (火) 11:10	管理者 男・50歳代 経験9年	一般貨物自 動車運送業	破 裂 タイヤホ イール	フォークリフト車体から外したタイヤから、工具を使用してホイールを外そうとしたところ、タイヤ内のチューブが破裂し、その勢いでホイールが吹き飛び、被災者の頭部に激突した。タイヤからホイールを外す前に、タイヤの空気を抜いておかなかった。	・タイヤホイールを取り外す際には、空気を抜いてから作業を行うこと。 ・タイヤの空気充填作業に従事する者には特別教育を行うこと。
83	H17.6.29 (水) 14:30	砕石工 男・60歳代 経験10年	採石業	転落・墜落 トラック	25tダンプトラックを運転し、原石を切羽より運搬中、左カーブを下っているときに、路肩から約6m下にトラックが転落した。被災者は、トラックの転落箇所から15m下方で発見された。	・運行経路には必要な個所に標識、柵を設ける等の転落防止措置を講ずること。 ・坂道等構内走行時の安全運転教育を行うこと。 ・点呼等により、運転者の健康状態を確認すること。

番号	発 生 日 時	職 種 性別・年齢 経験年数	事業の種類	事故の型 起因物	災害の概要と原因	対 策
84	H18.6.14 (水) 13:50	測量補助員 男・50歳代 経験10年	測量業	転落・転落 地 山	地形測量のため、光波測距儀により河川敷わきの崖の測量中、被災者が反射板を持って崖上端部に近づいたところ、足を滑らし、10m下の河川敷に転落した。	・崖等の墜落危険個所で作業を行うときは、安全帯やロリッブを使用させる等墜落防止措置を講じること。 ・作業指揮者を定め、安全帯の使用状況を監視させること。
85	H18.6.29 (木) 6:10	建設作業員 男・20歳代 経験9年	電気通信工 事業	交通事故 高所作業車	夜間作業を終え、高所作業車に2名が乗車して帰社途上、高速道路を走行中に大型トラックに追突して横転し、更に中央分離帯に衝突した。助手席に同乗していた被災者が死亡、運転者も負傷(休業1月)した。運転者の前方不注意が原因。	・「交通労働災害防止ガイドライン」に基づき、運転者の教育訓練を行うこと。
86	H19.1.10 (水) 8:40	荷役運搬者 男・50歳代 経験4年	自動車・付 属品製造業	崩 壊 荷	フレコンバッグ(1袋約0.9t)を段重ねした作業場において、クラムシェルを移動させようとして下段側に接触、袋が破れたため上段のフレコンバッグが崩壊し、単独で補修作業をしていた被災者が下敷きになった。	・フレコンバッグを平積みにする事。 ・フレコンバッグが破損した場合の安全作業手順を定め、関係者に周知すること。
87	H19.1.31 (水) 22:00	技術者 男・50歳代 経験32年	電気機械器 具製造業	その他 起因物なし	出張先の宿泊施設において、布団に呼吸をしないで横たわっている被災者を同僚が発見して病院に搬送したが、急性心不全により死亡が確認された。過重労働による発症。	・過重労働に係る健康障害防止対策(時間外・休日労働の削減、健康診断の事後措置、医師の面接指導等)を講じること。
88	H19.5.17 (木) 15:55	集配員 女・30歳代 経験8月	クリーニ ング業	交通事故 乗用車	クリーニングの集配作業のためワゴン車を運転し国道を走行中、運転操作を誤りセンターラインを越えてしまい、対向車(大型バス)に正面衝突した。	
89	H22.1.17 (日) 16:40	瓦葺工 男・30歳代 経験19年	その他の 建築工事業	墜 落 屋 根	瓦葺平屋住宅の瓦葺き替え工事において、被災者は、既存の瓦撤去後、雨漏り防止のためブルーシートを屋根に敷き、その上を歩いていたところ、バランスを崩し、屋根端(高さ3.9m)から墜落した。	・屋根上で作業を行うときは、足場や手すりの設置等墜落防止措置を講じること。 ・シート上に作業者を上らせるときは、滑落防止措置を講じること。 ・屋根上では、保護帽(墜落時保護用)を着用させること。
90	H22.1.19 (火) 13:10	施設管理員 男・40歳代 経験22年	接客娯楽業	激 突 足 場	修繕塗装のため単管足場を設置したジェットコースターの営業運転の可否を確認するため、被災者ら2名が搭乗し、試運転を試みたところ、突き出していた単管パイプに被災者の頭部が激突した。	・コースターに近接する障害物があるときは、労働者を乗せて走行させないこと。
91	H22.1.26 (火) 17:55	新聞配達員 男・50歳代 経験17年	新聞販売業	交通事故 トラック	集金のため原付バイクで国道を走行中、右折のためセンターライン付近で停止し、対向車の通過を待っていたところ、後ろから走行してきた大型トラックに激突された。さらに、はずみで対向車線に押し出され、対向車(乗用車)に激突された。	
92	H22.1.30 (土) 5:20	新聞配達員 男・40歳代 経験20年	新聞販売業	交通事故 バイク	朝刊配達のため原付バイクで走行中、路面が凍結していたためスリップし、電柱に激突した。	
93	H22.7.20 (火) 9:20	大 工 男・60歳代 経験45年	木造家屋建 築工事業	墜 落 屋 根	蔵建築工事現場において、電動釘打ち機を用いて屋根下地板を張っていたところ、足を滑らして、軒先(高さ約6m)に設置された外部足場の手すりと幅木の隙間から墜落した。足場の中さん等が未設置であった。	・足場には、手すりと作業床間からの墜落防止のため、中さん(高さ35cm～50cm)等を設置すること。 ・屋根上作業では、水平親綱等を設置し、安全帯を使用させること。
94	H22.9.19 (日) 14:19	作業員 男・30歳代 経験10月	産業廃棄物 処理業	はさまれ フォークリ フト	構内で、フォークリフト(最大荷重3.5t)の運転作業中、マスト下部の昇降用油圧シリンダー付近からの油洩れを確認するため、マストにリ付けたアタッチメントの下方に上体を入れたところ、アタッチメントが下降し、地面との間に頭部、胸部を挟まれた。油圧ホースが破断し、作動油が漏れていた。	・フォークリフトのフォーク等の下に作業者を立入らせないこと。 ・点検等のためフォーク等の下に立入らせるときは、不意の降下による危険防止措置(安全支柱、ブロック等の使用)を講じること。 ・フォークリフトの点検作業マニュアルを定めて周知すること。
95	H23.3.11 (金) 15:30	運転手 男・30歳代 経験10年	一般貨物自 動車運送業	その他(津 波) 海	トラックによる荷の配送業務のため、福島県いわき市内へ行った際に東北地方太平洋沖地震が発生。トラックごと津波にのまれた。3月26日、ガレキの下から遺体が発見された。	
96	H23.3.11 (金) 14:50	その他の職 種 男・60歳代 経験2年	水産食料品 製造業	その他(津 波) 海	福島県いわき市で、東北地方太平洋沖地震の発生に伴い、津波が懸念されたため、漁港から自家用車で非難する途中、家屋の火災発生による渋滞で立ち往生してしまい、津波にのまれた。	
97	H23.11.24 (水) 10:40	作業員 男・60歳代 経験40年	機械器具設 置工事業	墜 落 開口部	下水処理ポンプ場電気設備災害復旧工事において、配電盤の撤去作業終了後、建屋床面の開口部(950mm×1510mm)を養生していたパレットを搬出しようとして、同僚と共に手で持ち上げ移動しようとしたところ、開口部から3.7m下の地下ポンプ室に墜落し、さらに下の汚水槽に墜落した。	・高さ2m以上の床面の開口部には、墜落防止のため囲い・覆い等を設置すること。 ・囲い等の設置が著しく困難な時又は作業の必要上臨時に取り外すときは、防網を張るか水平親綱等を設置し安全帯を使用させること。